奈良工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	国語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0019	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3
開設学科	電子制御工学科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	「新高等学校　現代文Ｂ」（明治書院）「新高等学校　古典Ｂ」（明治書院）/「新国語便覧（新版六訂）」（第一学習社）、「常用漢字ダブルクリア」（尚文出版）、「論理力ワークノート」（第一学習社）、「新精選古典文法（改訂版）」（東京書籍）		
担当教員	松井 真希子,中西 潔		

到達目標

1.高等学校２年生相当の漢字力や語彙力を身につけている。
2.小説について、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。また、自身の経験にひきつけて感想を述べることができる。
3.評論文について、全体の構造を把握し、筆者の意見を的確に読み取ることができる。また、筆者の意見に対して、自身の意見を根拠をもって表現することができる。
4.日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。
5.文語のきまり、漢文訓読のきまりを身につけている。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	話し手の指示や意見を的確に聞き取り、正確にまとめることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、適切な声の大きさ、明瞭な発音で、述べたり読んだりすることができる。	話し手の指示や意見を的確に聞き取ることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、述べたり音読したりすることができる。	話し手の指示や意見を聞くことができない。 聞き手を意識せずに、自身の意見や与えられた文章を、声の大きさや発音に気を留めずに述べたり音読したりする。もしくは活動時に発言しない。
評価項目2	書物や文献に対して、批判的に読解し、自身の意見を抱き、正確に表現することができる。	書物や文献に対して、自身の意見を抱き、表現しようと工夫することができる。	書物や文献に対して、自身の意見を表現することができない、もしくは文章表現として著しい誤りがある。
評価項目3	初見の文章について、内容を理解しながらスムーズに音読することができる。	初見の文章について、句としてのまとまりを意識しながら音読することができる。	初見の文章について、単語ごとに細切れに音読する。
評価項目4	言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を即座に調べ、習得することができる。 高校卒業程度の語彙力（漢検準2級～2級程度）を有しており、適切に運用することができる。	言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を自主的に調べることができる。 高校在学程度の語彙力（漢検準2級程度）を有しており、適切に運用することができる。	言葉に関心がなく、初見の語であっても自主的に調べることがない。 中学校卒業程度の語彙力（漢検3級程度）を有しており、高校在学程度の語彙を誤って運用することがある。
評価項目5	日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。	日本の伝統的な言語文化について、興味・関心を持つことができる。	日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ったり、その価値に気づくことができない。
評価項目6	文語のきまり、漢文訓読のきまりを身につけている。	文語のきまり、漢文訓読のきまりについて、調べることができる。	文語のきまり、漢文訓読のきまりについて、全く理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程（本科１～５年）学習教育目標 （３）

教育方法等

概要	他者との相互理解や相互伝達を円滑なものにするために、理解力や表現力とそれらを支える思考力や感性を培う。また、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育む。
授業の進め方・方法	高等学校第２学年に相当する国語の力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な文章を読み、多様な考えに触れる。自分が感じたり、考えたりしたことを口頭や文章によって表現する機会、クラスメイトの意見や考えに触れ、検討や議論を通して自分の考えを深める機会をもつ。通年の2時間を現代文、半期の2時間を古典（古文・漢文）の時間に当てる。
注意点	関連科目 国語の運用能力は、人文や社会科学系の科目ばかりでなく、自然科学系の科目の基礎にもなる。 学習指針 授業中は発問を多くするので、積極的な発言や質問ができるよう準備しておくこと。 また、作文や創作の時間を有効に使えるように、日頃から問題意識を持って自分や自分の身の回りの世界に目を向けておくこと。毎週現代文の時間の冒頭で小テストをする。 自己学習 授業前に教科書の下読み、知らない言葉の下調べは必ず行うこと。プリント課題にも必ず取り組んでおくこと。予習・復習をして理解を深める工夫をすること。 古典については予習をすること。教科書の本文を写し、重要単語の意味を調べて大事な注なども写しておく。意味や訳のわからなかったところを授業で補い、ノートに記入するようにするとよい。

学修単位の履修上の注意

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	現代文　ガイダンス・河合隼雄「心の鉱脈」①	現代文　ノートの取り方を理解する。本文全体の構造を理解する。
		2週	現代文　評論(1)　同上②	現代文　評論の基本的な読み方を習得する。
		3週	現代文　評論(1)　同上③	現代文　筆者の主張を的確に把握できる。

		4週	現代文　小説(1)　中島敦「山月記」①	現代文　李徴と袁傪の人柄が説明できる。
		5週	現代文　小説(1)　同上②	現代文　李徴の心情の変化と自己分析について説明できる。
		6週	現代文　小説(1)　同上③	現代文　李徴が虎になった背景について、自分の意見が述べられる。
		7週	現代文　表現活動(1)	現代文　「論理力ワークノート」第1章での力が身についている。
		8週	前期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
	2ndQ	9週	前期中間試験返却・解説 現代文　評論(2)　石黒浩「ロボットとは何か」①	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 現代文　本文中のキーワードが把握できる。
		10週	現代文　評論(2)　同上②	現代文　筆者の主張が理解できる。
		11週	現代文　評論(2)　同上③	現代文　人間と機械との関係について、自身の意見が述べられる。
		12週	現代文　小説(2)　安部公房「赤い繭」①	現代文　場面の展開と、登場人物の心情について、正しく読み取ることができる。
		13週	現代文　小説(2)　同上②	現代文　「家」と「俺」の関係について自身の意見を持つことができる。
		14週	現代文　表現活動(2)	現代文　「論理力ワークノート」第2章での力が身についている。
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	前期末試験返却・解説	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。
後期	3rdQ	1週	現代文　評論(3)　高階秀爾「「間」の感覚」① 古　典　ガイダンス・説話(1)　「児の飴食ひたること」①	現代文　全体の構成や展開を理解することができる。 古　典　ノート作りの意義について理解できる。説話の面白さを理解することができる。
		2週	現代文　評論(3)　同上② 古　典　説話(1)　同上②	現代文　対比構造を正確に読み取ることができる。 古　典　児の機転を読み取る。
		3週	現代文　評論(3)　同上③ 古　典　説話(1)　「大江山」	現代文　筆者の主張を理解できる。 古　典　人物関係を正確に読み取る。基本的な和歌の修辞を理解する。
		4週	現代文　評論(3)　同上④ 古　典　物語(1)　『竹取物語』「かぐや姫の昇天」①	現代文　筆者の主張に対して、自身の意見を述べることができる。 古　典　古典の代表的な作品について、あらすじを理解できる。基本的な古典単語についての知識を身につける。
		5週	現代文　小説(3)　高橋源一郎「白紙」① 古　典　物語(1)　同上②	現代文　場面の展開と登場人物の心情について、正しく読み取ることができる。 古　典　古典作品の内容を読みとり、訳すことができる。『竹取物語』に込められたテーマを考える。
		6週	現代文　小説(3)　同上② 古　典　故事・逸話(1)　「矛盾」「推敲」	現代文　母と子の関係について考えを深めることができる。 古　典　再読文字などのある漢文を訓読できる。故事成語について知る。
		7週	現代文　表現活動(3) 古　典　学力判定試験	現代文　「論理力ワークノート」第3章での力が身についている。 古　典　授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		8週	後期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
	4thQ	9週	後期中間試験返却・解説 現代文　小説(4)　夏目漱石「こころ」① 古　典　随筆(1)　『徒然草』「これも仁和寺の法師」	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 現代文　夏目漱石について、概略が説明できる。 古　典　話の面白さと結末について理解できる。
		10週	現代文　小説(4)　夏目漱石「こころ」② 古　典　史話・史伝(1)　『史記』「鴻門之会」①	現代文　「私」の心情の変化を軸に、場面を正確に把握できる。 古　典　日本と外国文化との関連に関心を持つことができる。登場人物の関係を理解できる。
		11週	現代文　小説(4)　夏目漱石「こころ」③ 古　典　史話・史伝(1)　同上②	現代文　「私」の心情と態度を関連づけて、その過程を正確に辿ることができる。 古　典　漢文の内容を理解し、歴史書の面白さを味わうことができる。
		12週	現代文　小説(4)　夏目漱石「こころ」④ 古　典　物語(2)　『源氏物語』「小柴垣のもと」①	現代文　「K」が自殺した動機について、自分の意見が述べられる。 古　典　物語のあらすじを理解できる。
		13週	現代文　小説(4)　夏目漱石「こころ」⑤ 古　典　物語(2)　同上②	現代文　『こころ』について、正確な日本語で感想文が書ける。 古　典　内容や登場人物の心情が理解できる。重要古語や敬語の知識を身に付ける。
		14週	現代文　小説(4)　夏目漱石「こころ」⑥ 古　典　学力判定試験	現代文　『こころ』に対する感想について意見交換し、考えを深めることができる。 古　典　授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	学年末試験返却・解説	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	前1,前2,前3,前8,前9,前10,前11,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後8,後12
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前1,前2,前3,前8,前9,前10,前11,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後8,後12
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	前4,前5,前6,前8,前12,前13,前15,前16,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後13,後14,後15,後16
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後13,後14,後15,後16
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後13,後14,後15,後16
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前7,前8,前9,前10,前11,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後7,後8,後9,後10,後11,後13,後14,後15,後16
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前7,前14,前16,後7,後13,後16

				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前2,前3,前8,前10,前11,前14,前15,後2,後3,後4,後7,後8,後15
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前2,前3,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後2,後3,後4,後7,後8,後12,後13,後14,後15,後16
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前3,前7,前8,前11,前14,前15,前16,後1,後3,後7,後8,後13,後14,後15,後16
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前6,前7,前11,後3,後4,後6,後12,後14
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前5,前6,前10,前11,前13,後2,後3,後4,後6,後14
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前2,前3,前5,前6,前7,前10,前11,前13,前14,前16,後2,後3,後4,後6,後11,後12,後13,後14,後16
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後15,後16

評価割合

	試験	課題・提出物	小テスト	合計
総合評価割合	70	20	10	100
現代文能力	49	10	10	69
古典能力	21	10	0	31